

比「カーテル校」開校

光星学院 日本での就労視野

八戸市の学校法人光星学院がフィリピンの教育財団などと共同運営する中高一貫校「八戸学院カーテル校」の開校式が13日、同国タラック州の同校関連施設で開かれた。人手不足が深刻な日本での就労を視野に、国内での雇用機会が多くないフィリピンの若者に対し、日本語と日本文化の学習を重視した教育を展開する。日本への奨学金制度も設ける。教育を軸に、両国

の課題解決を目指す取り組みがスタートした。

【関連記事22面】

開校式には、光星学院や、カーテル校を共同運営するフィリピンの「カーテル科 学教育財団」関係者らが出席。同財団のカリート・アレナス理事長は、開校について「この学校の歴史におけるマイルストーン(画期的な出来事)」と述べた。光星学院の法官新一理事長は「フィリピンの生徒た

ちにとって、日本への留学、就労につながる機会になれば」とあいさつ。南部町の工藤祐直町長、三戸町の松尾和彦町長も壇上に立ち、日本で活躍する人材の育成に期待を寄せた。

カーテル校は、同財団が運営する既存の私立校の名称や教育課程を変更し開校する。生徒は約300人。新たに邦人日本語教師を配置するなど教育環境を整えた。



八戸学院カーテル校の生徒に、授業で使う柔道着のサンプルを着せる法官理事長(左)。右はアレナス理事長

このほか、光星学院の海外展開、人材紹介事業を担う関連会社「八戸学院グループ」(HGG、大谷真樹代表取締役社長)が、日本での就労を望む生徒を支援する。優秀なフィリピンの

人材を早期に確保するのが狙いで、学生を日本のIT、介護などの事業者に紹介する。事業者が、渡航費や就労に必要な日本語学習費用を負担する。

(新村菜穂)